

第73回研究大会プログラム

JAPAN SOCIETY for the STUDY of ADULT and COMMUNITY EDUCATION : the 73rd Annual Conference

日 時 2026年9月5日(土)～7日(月)

会 場 法政大学 市ヶ谷キャンパス

後 援 法政大学資格課程

9月	12:30 ~			13:00 ~ 16:00		16:15 ~ 18:45		19:00 ~ 20:30	
5日	受付			プロジェクト研究 「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」		社会教育士 特別プロジェクト		全国理事会 ／若手研究者の集い	
土									
6日	8:30 ~ 受付	9:00 ~ 11:30	11:30 ~ 12:30	12:30 ~ 15:00	15:00 ~ 16:30	16:45 ~ 18:00	18:15 ~ 20:15		
日		自由研究発表	ポスターセッション／昼食	自由研究発表	倫理研修	総会	懇親会		
7日	9:00 ~ 受付	9:30 ~ 12:30	昼食	13:30 ~ 16:00					
月		プロジェクト研究 「DX時代の社会教育・生涯学習の課題」		ラウンドテーブル ①～⑥					

【自然災害等への対応について】

例年9月は台風の上陸等が懸念されます。その場合は、学会の方針「自然災害等により集会開催に影響が予想される場合の対応について」に基づき、前日までに対面開催の可否及び代替策を企画者ならびに三役及び組織財政担当理事で協議し、結果は学会ホームページ及び会員一斉メール・参加申込者宛メールで周知いたします。

【目次】

◇第73回研究大会・ご案内	2
◇第73回研究大会への参加について	3
◇参加者の皆様へ（注意事項）	4
◇ポスターセッションについて	5
◇会場案内	
法政大学 市ヶ谷キャンパスへのアクセス	6
法政大学 市ヶ谷キャンパス構内案内図	7
会場一覧	8
大内山校舎・富士見ゲート案内図	9
◇第1日目（9月5日）プログラム	
プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」	11
社会教育士特別プロジェクト	12
全国理事会／若手研究者の集い	13
◇第2日目（9月6日）プログラム	
自由研究発表 第1室～第9室	14
ポスターセッション	23
倫理研修／総会／懇親会	26
◇第3日目（9月7日）プログラム	
プロジェクト研究「DX時代の社会教育・生涯学習の課題」	27
ラウンドテーブル①～⑥	28

■ ご案内

(1) 受付案内

受付場所は、大内山校舎 1 階ロビースペースです（3 日間共通）。

(2) 参加費等

研究大会への参加は、事前申込制です（3 頁をご参照ください）。

①参加費

一般（会員・非会員）：2,500 円（非会員の院生を含む）
大学院生（学会員で院生登録している者を対象とする）：1,500 円
大学生：無料（学生証提示）

②懇親会費

一 般 5,000 円、大学院生・大学生 3,500 円

③昼食

各自でご準備ください。※会場でのお弁当販売はありません。

(3) 会場案内

会場案内は 6 頁、会場一覧は 7 頁、教室案内は 9 頁をご参照下さい。＊敷地内禁煙です。

(4) 当日配布資料

会場でのコピーは出来ませんので、発表者は、各自ご用意ください（約 50 部程度）。

(5) Wi-Fi 環境

会場校より学内 LAN のゲスト用アカウントが提供される予定です。ID・パスワードは当日会場の掲示等でご確認ください。なお、会場校は国際学術無線 LAN ローミング基盤（eduroam）に参加しています。

(6) 合理的配慮

機能障害等のある方で大会時に合理的配慮を希望する方は、事前に事務局までお知らせください（参加申込みフォームに記入欄があります）。

(7) 会場校の連絡先（代表者）

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1
法政大学キャリアデザイン学部 久井英輔
Tel：03（3264）9750 E-Mail：hisai@hosei.ac.jp

日本社会教育学会事務局 ≪H P <https://www.jssace.jp/>≫

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10- 1 F

連絡先：jssace.office@gmail.com

■第 73 回研究大会への参加について

参加受付には、事前の参加申込と事前の参加費振り込みが必要です。

参加申込みのみ／参加費の振込みのみでは、参加受付となりません。事務局で入金の確認ができないと参加申込を受け付けられない場合がありますので、お早めに申込と振込の両方を完了してください。

- 事前申込後のキャンセルはご遠慮ください。キャンセルの場合、返金には応じられませんのでご了承ください（台風等の天災による場合を含む）。
- 各プロジェクト研究等の報告者・司会者や、自由研究発表・ポスターセッションの報告者も、事前の参加申込みが必要です（非会員で学会による招聘者を除く）。一部のプログラムにのみ参加する場合も、事前申込みをしてください。
- **要旨集等については、事前参加申込みされた方のみに、9/2(水)までにメールでご案内いたします。**大会前日になってもご案内が届かない場合は、事務局までお知らせください。要旨などの案内はご登録のメールアドレスに通知いたしますので、参加申込み時のメールアドレスの登録はお間違えないようお願いいたします。

●事前参加申込受付期間：2026 年 8 月 1 日（土）～8 月 14 日（金）

申込方法：学会HPのトップ画面にある＜研究大会参加申込システム＞から参加登録をしてください（非会員も同じです）。当日受付はございません。会員の方は、申し込みの際には会員 ID（ログイン ID）を必ず記入し、学会に登録してある所属先を入力してください（オンラインで手続きができない場合は、事務局までご連絡ください）。

●参加費（および懇親会費）の振込期間：2026 年 8 月 1 日（土）～8 月 17 日（月）

振込みには、必ず氏名（所属）をご記入ください。参加費と懇親会費は一括での振込（合算）でも個別での振込みでも結構です。

【参加費】 一般（会員・非会員）：2,500 円（非会員の院生を含む）
大学院生（学会員で院生登録している者）：1,500 円
大学生：無料（学生証提示）

【懇親会費】 一般：5,000 円、大学院生・大学生：3,500 円

＜振込先＞ 口座名：日本社会教育学会

ゆうちょ銀行 振替口座 00150-1-87773

他金融機関からの振込用口座番号 ○一九（ゼロイチキュウ）店（019）当座 0087773

■参加者の皆様へ（注意事項）

Ⅰ. 研究大会への参加にあたって、以下の倫理宣言を改めてご確認ください。

日本社会教育学会倫理宣言

本学会は、第 59 回研究大会総会において、社会教育の理論・実践の研究を通じて自由・平等・民主主義の実現をめざし人間の幸福と社会の福祉に学術的に貢献することが、学会および学会員の責務であること、それゆえ、真理の追求、人間の尊厳および基本的人権の尊重が、研究をはじめとするすべての学会活動の基盤となること、とりわけ、不正な目的、方法による研究は学問的真理への道を閉ざすものであり、権威や権力の濫用は学問の自由な発展とは相容れないものであること、したがって、不正な研究や差別・ハラスメントの防止に努めることが学会および学会員の倫理的義務であることを、改めて確認し、第 54 回研究大会総会で採択された「学会活動の倫理に関する申し合わせ」を発展的に改定し、学会および学会員が、研究ならびに学会活動において、以下の原則を遵守することを宣言する。

1. 研究活動に関する倫理と基本原則

研究は、その水準の向上のために、常にオリジナリティと客観性、公正性をめざして、正直、誠実に行われなければならない。情報、データの管理は責任を持って行い、調査結果の捏造、改ざん、論文の盗作はあってはならない。

研究が情報提供者を得て行われる場合には、研究の対象者、協力者に対し、研究の意義、目的、方法、予想される結果、対象者の負担などを十分説明した上で、自由意志による同意と参加を得るとともに、福利、権利、プライバシーに配慮し、これを保護する。

会員の成果を建設的かつ正当に取り扱うとともに、真摯な態度で意見を交え、会員の名誉や知的財産権を尊重する。

公の研究費を利用する場合には、法令や規則を遵守する。

2. 安全かつ公正で対等な関係による学会活動

全ての会員は、安全かつ公正で対等な関係による学会活動に従事する権利を有する。

人種、民族、国籍、性、年齢、障がい、身体的特徴、思想、宗教、地位（婚姻上の地位を含む）、その他あらゆる形態の差別は、これを認めない。

学会の役職上の関係、研究上の立場や指導関係、その他の社会関係を利用して、他の学会員に対する不当な取り扱い、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントをしてはならない。

3. 学会の取り組み

自由で公正・平等な学会運営を目指す本学会は、差別やハラスメントを許さない。そのために以下の取り組みを行う。(1) 研究環境の悪化が研究の活性化を妨げるだけでなく倫理的な問題の原因となることを考慮し、大学などの研究機関および実践・研修機関など社会教育研究者・実践者にとってのあらゆる環境の改善に努力する。(2) 差別・ハラスメントの撤廃・禁止に向けた意識向上・防止のための取り組みを行う。(3) 差別・ハラスメントの当事者への対応および、二次加害・二次被害を防止するために必要な対応については規定によって定める。(2012 年 10 月 7 日、第 59 回研究大会総会採択)

Ⅱ. 研究大会中に、上記の倫理宣言に反する言動があったと思われる場合は、大会本

部までお知らせください。研究大会終了後は本学会倫理委員会にお知らせ願います。

以上

■ポスターセッションについて

- ポスターの掲示は、指定された会場で2 日目の大会開始 10 分前に集合し開催校の担当者の指示に従って、掲示を終えて下さい。ポスター展示は 2 日目のみとなります。
- 掲示に必要な画鋏、磁石や養生テープ、ガムテープなどは、開催校では用意しません。報告者は、自身の掲示に必要な分の画鋏をご持参ください。
- ポスターは、大会プログラムに掲載された番号と同じ番号の掲示板に貼って下さい。
- 必須在席時間（昼休み）の 10 分前に、会場担当（理事）から登壇者の確認を行います。
- ポスターは報告者による持参と撤収が原則です。事前の郵送提出や出力依頼には対応しません。ポスターは2 日目の学会終了時間までに各自で撤去してください。
- ポスターセッションでの資料配布や PC の持ち込みは自由です。ただし、ポスター掲示用パネル以外の机や椅子等の提供、電源等の供給、プリントアウトはできませんのでご了承ください。
- 当日の記録や運営改善のため、運営側で会場の様子を録画・録音する場合があります。あらかじめご了承ください。

日本社会教育学会ポスターセッション登壇者への大切なお願い

ご発表いただくポスターは、多くの方の目に触れる可能性があります。また、ポスター発表は会員であるなしに関わらず、多くの参加者が集う場になる可能性があります。こうした観点から、ご発表に際して、以下の点にご配慮いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 研究倫理の遵守について

ポスター発表は研究倫理審査の受理を必須としておりませんが、人を対象とした調査等を含む場合は、研究倫理を遵守している旨をポスター内に明記してください。特にインフォームド・コンセントの取得状況、及び個人情報の扱いについては、「日本社会教育学会倫理宣言」（前頁参照）を踏まえ、適切かつ慎重に取り扱ってください。

2. 心理的安全性の確保について

登壇者は、ポスター作成および発表に際して、他者を誹謗中傷する表現をはじめ、参加者の心理的安全性を損なう可能性のある内容が含まれないよう、十分にご注意ください。なお、学術的な批判や議論はこの限りではありません。

3. 差別的発言等への対応について

発表中に参加者から差別的な発言等があった場合は、発表者の判断でその行為を制止してください。制止にもかかわらず差別的言動が続く場合は、会場担当（理事）を配置しておりますので、速やかに助けを求めてください。また、そのようなハラスメント事象が発生した際には、可能な範囲で正確な記録を残し、大会本部へご報告ください。

（日本社会教育学会 倫理委員会）

■法政大学（市ヶ谷キャンパス）へのアクセス



市ヶ谷キャンパスは広範囲にわたって点在する建物を含みますが、研究大会会場となる校舎（大内山校舎、富士見ゲート、ボアソナード・タワー）はすべて、主要な校舎が集中している「富士見校地」内にあります。

市ヶ谷駅、飯田橋駅からそれぞれ外濠に沿って歩くと、富士見校地内の「富士見ゲート」の近くに大きな門（正門）がありますので、そこから入構するのが最もわかりやすいです。

■法政大学（市ヶ谷キャンパス）構内案内図



市ヶ谷キャンパスのうち、①～⑧の校舎が集中する主要な敷地が「富士見校地」です。

今回の研究大会では、富士見校地の①大内山校舎、②富士見ゲート、⑤ボアソナード・タワーのみを使用します。

市ヶ谷駅、飯田橋駅からそれぞれ外濠に沿って歩き、上図の赤い矢印を記した場所にある門（正門）から入構していただければ、各校舎、教室にスムーズにたどり着けます。

■各校舎名（富士見校地内のみ）

①大内山校舎

1 階：受付、書籍販売、ポスターセッション

3 階：大会本部、三役控室

4 階～6 階：プロジェクト研究等打合せ室、会員控室、若手研究者の集い、自由研究発表各部会、ラウンドテーブル

②富士見ゲート

3 階：懇親会

5 階：プロジェクト研究、倫理研修、総会

⑤ボアソナード・タワー

26 階：全国理事会

■会場一覧

9月5日(土)

プロジェクト研究	富士見ゲート	5階	G503
特別プロジェクト	〃		
全国理事会	ボアソナード・タワー	26階	A会議室
若手研究者の集い	大内山校舎	4階	Y402

9月6日(日)

自由研究発表 第1室	大内山校舎	4階	Y403
自由研究発表 第2室	〃	4階	Y404
自由研究発表 第3室	〃	4階	Y405
自由研究発表 第4室	〃	5階	Y502
自由研究発表 第5室	〃	5階	Y503
自由研究発表 第6室	〃	5階	Y504
自由研究発表 第7室	〃	5階	Y505
自由研究発表 第8室	〃	6階	Y602
自由研究発表 第9室	〃	6階	Y603
ポスターセッション	〃	1階	ロビースペース
倫理研修	富士見ゲート	5階	G503
総会	〃	5階	G503
懇親会	〃	3階	カフェテリアつどひ

9月7日(月)

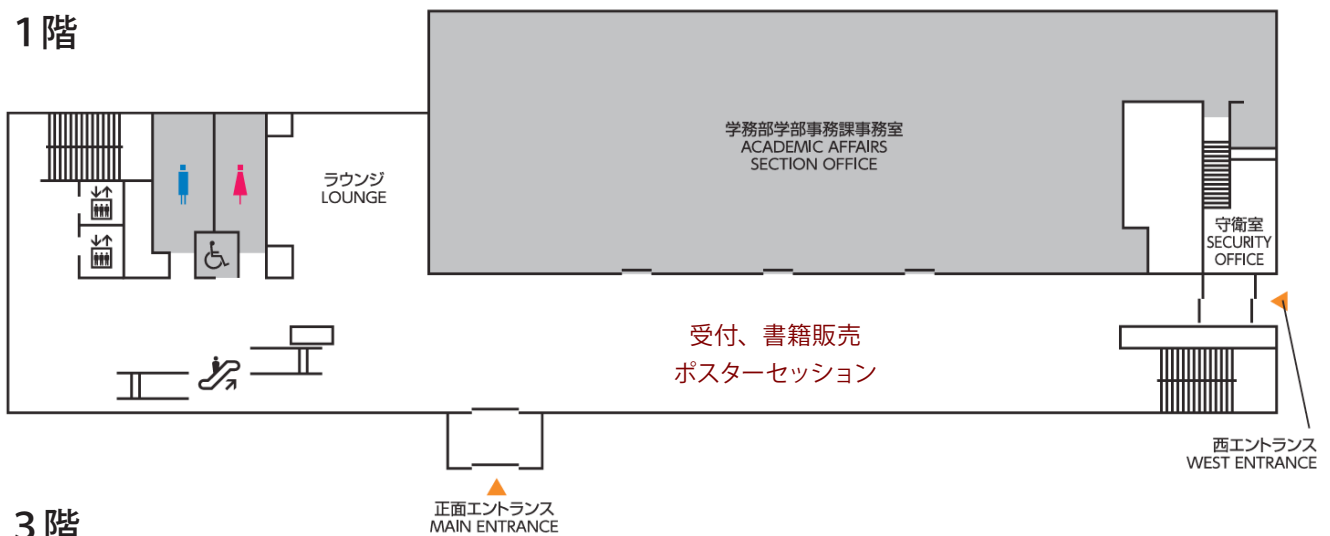
プロジェクト研究	富士見ゲート	5階	G503
ラウンドテーブル(RT)①	大内山校舎	4階	Y403
ラウンドテーブル(RT)②	〃	4階	Y404
ラウンドテーブル(RT)③	〃	4階	Y405
ラウンドテーブル(RT)④	〃	5階	Y502
ラウンドテーブル(RT)⑤	〃	5階	Y503
ラウンドテーブル(RT)⑥	〃	5階	Y504

9月5～7日共通

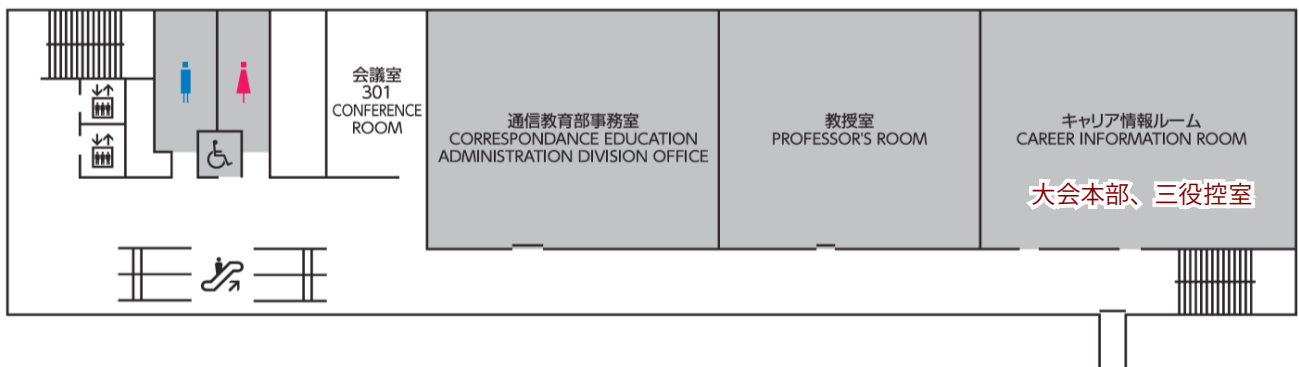
大会本部・三役控室	大内山校舎	3階	キャリア情報ルーム
参加者控室	〃	4階	Y402
受付・書籍販売	〃	1階	ロビースペース

■大内山校舎（1～5階）案内図

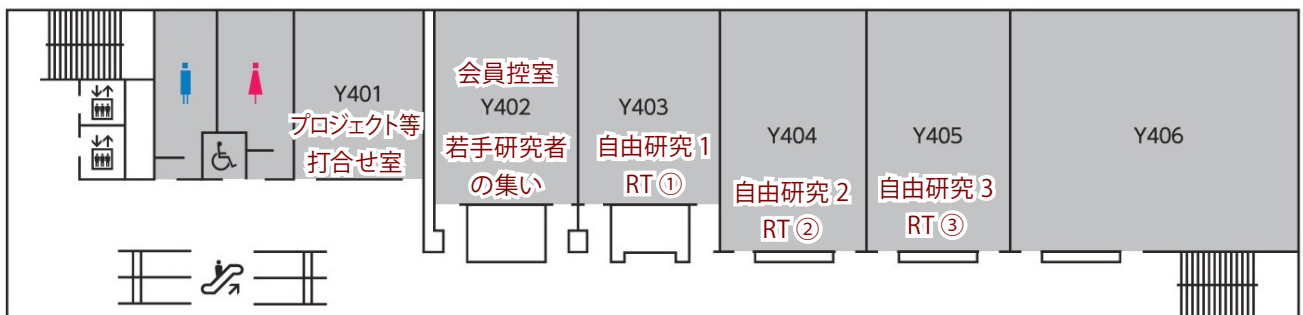
1階



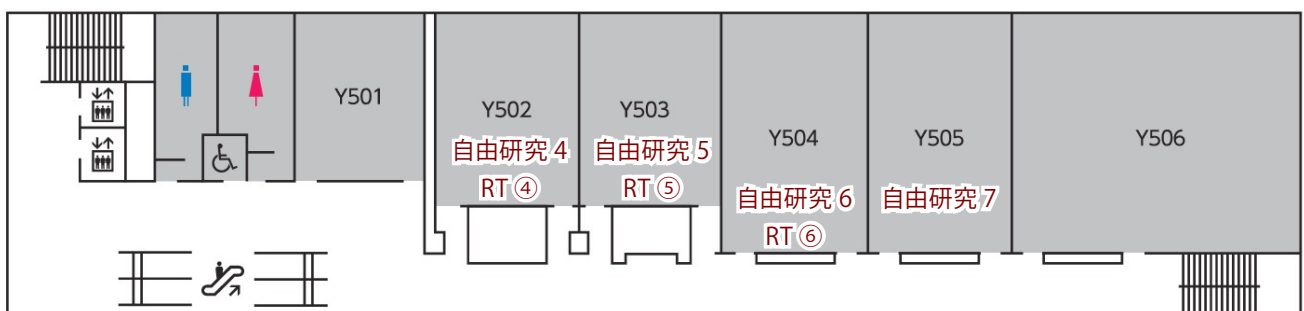
3階



4階



5階

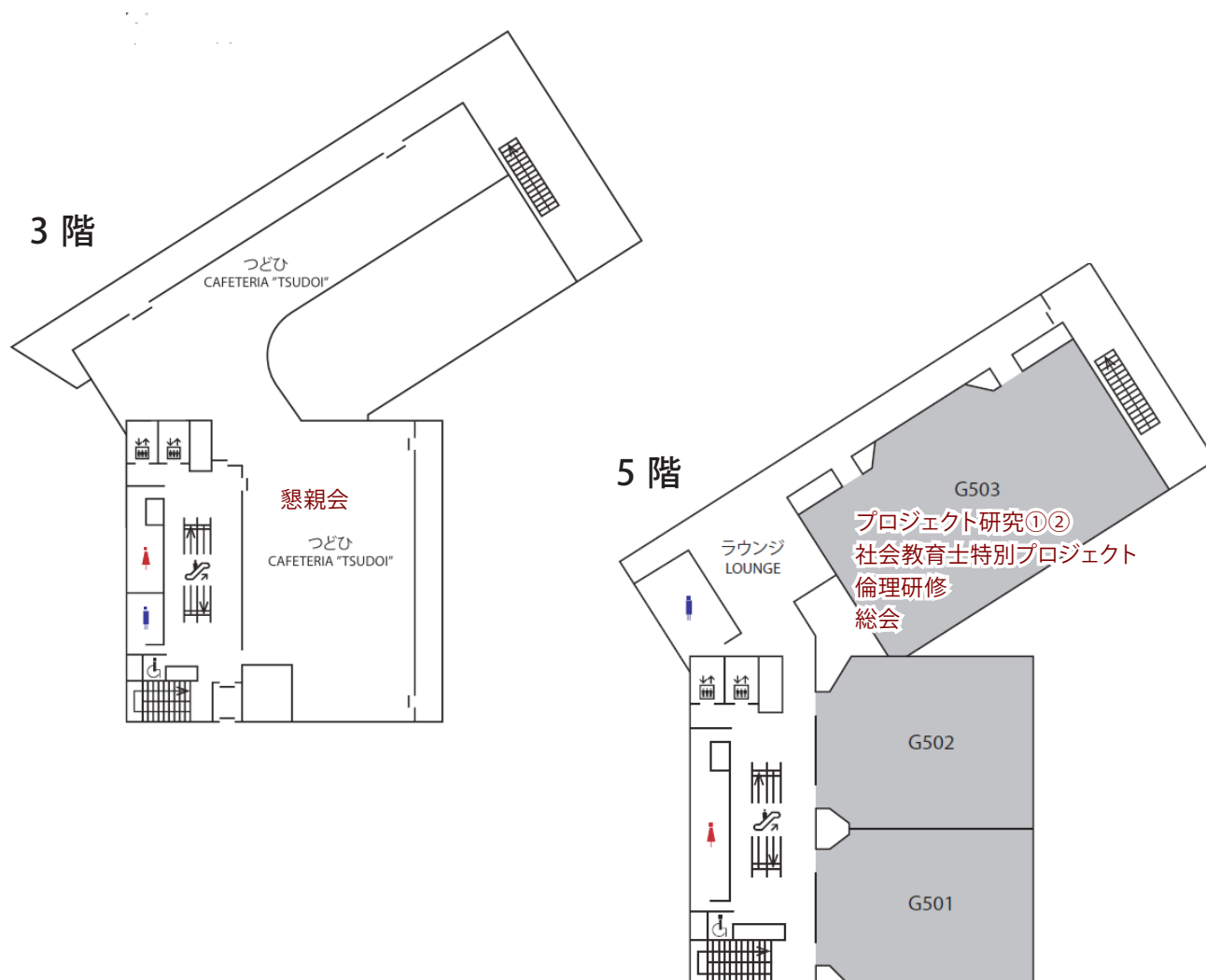


■大内山校舎（6階）案内図

6 階



■富士見ゲート案内図



■ボアソナード・タワー 26 階（平面図省略）→ A 会議室 9/5（土）、19:00～全国理事会

第1日目 9月5日(土)

プロジェクト研究

男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性

13:00～16:00 富士見ゲート5階 G503

テーマ 男女平等・ジェンダー公正と社会教育(2)ー社会教育の展望を探る

司 会 富永貴公(都留文科大学)、矢内琴江(早稲田大学)

報告Ⅰ 男女共同参画政策が問う／を問う社会教育：男女平等・ジェンダー公正に向けて
辻 智子(北海道大学)

報告Ⅱ 男性たちの／をめぐる学習を考える
中尾友香(中央大学大学院)・井口啓太郎(国立市公民館)

報告Ⅲ 社会事業的社会教育の史的展開とジェンダー
大村隆史(東海大学)

内 容 本プロジェクト研究は3年目(2026年度)で終わりを迎える。最終回となる本企画では、これまでのプロジェクト研究における検討を踏まえ、様々なアクターによって担われて展開されてきた男女平等・ジェンダー公正に関わる状況を踏まえながら、社会教育の理論と実践に関わる展望を探る。

本プロジェクト研究は、2000年代以降の新たな概念や分析枠組みなどを用いてジェンダー・セクシュアリティをめぐる社会教育の課題と展望を捉えるところから始まり、労働・家族をめぐる諸問題の複雑化する現実を起点にケアの視点から社会教育の課題と展望を検討し、さらに地域社会におけるジェンダー秩序と社会教育実践・社会教育研究の関係を問うてきた。最終回では、今後も議論すべき課題は山積していることは自覚しつつも、新自由主義的経済改革の下で拡大した女性間の格差、深刻化する困難な状況を踏まえ、社会教育はジェンダー公正に向けてこの現実といかに対峙し、乗り越えていくのかを以下の三つのアプローチから検討したい。

具体的に、まず、報告Ⅰでは、男女共同参画政策は社会教育をどのように位置づけてきたか、社会教育は男女共同参画政策とどう向き合っていくべきか、という問いを交差させながら、学習の場としての男女共同参画施設と、社会教育施設／活動における学習の課題と展望を検討する。報告Ⅱでは、男性たちの働きかた・生きかたに関わる公民館講座を取り上げ、そこにおける学習者の多様性を踏まえて男性たちの／に関わる学習のこれからを考える。そして報告Ⅲでは、社会教育のひとつの原型とされた「社会事業的社会教育」、および教育福祉の史的展開を後づけるとともに、それらにどのように女性が包摂されてきたのかを考察する。

社会教育士特別プロジェクト

社会教育人材を中核とした今後の社会教育のあり方 ～「社会教育士特別プロジェクト」最終報告～

16:15～18:45 富士見ゲート5階 G503

司 会 倉持伸江（東京学芸大学）・農中 至（鹿児島大学）

報告1：各部会からの提案

平川景子（明治大学）：養成課程部会

石井山竜平（東北大学）：主事講習部会

村田和子（和歌山大学名誉教授）：しくみ・計画部会

内田和浩（北海学園大学）：研修・組織化・キャリア部会

松田弥花（広島大学）：比較研究部会

報告2：社会教育士特別プロジェクトのまとめ

内田純一（高知大学）

コメンテーター：岩橋恵子（志学館大学名誉教授）・宮崎隆志（北海道文教大学）

内 容 「社会教育士特別プロジェクト」は、本研究大会でいよいよ最終報告を迎える。日本社会教育学会では、これまで社会教育関係職員の力量形成を、実践と省察の往還、異なる実践の語り合い、地域における〈学び合うコミュニティ〉の形成と結びつけて研究を行ってきた。社会教育士特別プロジェクトは、そうした研究蓄積を継承しつつ、5つの部会（「養成課程部会」「主事講習部会」「しくみ・計画部会」「研修・組織化・キャリア部会」「比較研究部会」）を設け、社会教育士をめぐる現状と課題を多面的に検討してきた。2026年6月集会では、本研究大会に向けた前段として、各部会の調査研究の概要を確認しつつ、その横断的な論点整理を行った。制度創設から5年、社会教育士は、行政・学校関係者にとどまらず、地域活動者、NPO、民間、学び直しを志向する人々へと広がり、社会教育の価値や方法を多様な場に可視化する可能性を示している一方で、称号取得後の役割、配置、研修、ネットワーク、キャリア形成を支える一体的な制度的基盤はなお脆弱であり、社会教育人材の広がりを持続的な職能形成と不断に学び続ける社会教育推進体制へとどう結びつけるかが問われている。

最終の本会では、今後の学会や大学が担う役割を視野に入れつつ、あらためて5つの部会の研究結果とそれを踏まえたまとめを提示し、社会教育実践・社会教育研究のあり方を展望したい。なお、コメンテーターは、岩橋恵子（志学館大学名誉教授）会員と宮崎隆志（北海道文教大学）会員にお願いした。

全国理事会

19:00～20:30 ボアソナード・タワー 26 階 A 会議室

若手研究者の集い

19:00～20:30 大内山校舎 4 階 Y402

「この学会はどのような場所で、どのようなキャリアを歩んでいる人がいるんだろう」「いろいろな研究や実践をもっと知りたい」。そんな素朴な疑問や日ごろの困りごとがあっても、いつ、誰に聞けばいいのかわからずそのままにしまうことはありませんか。

本企画は、参加者が学会の雰囲気を掴んでいくことができるよう、準備しています。互いにざっくばらんに語らいながら、いろいろな参加者の社会教育やその他の領域への関心を知り、ともに支え合える仲間を見つけていきましょう。お菓子と飲み物を用意します。

対象：若手研究者を自称する方。（学会への入会状況や職歴、学年・年齢は問いません。どなたでもご参加いただけます。）

※参加申込の詳細については、後日ご案内します。当日の飛び込み参加も歓迎します。

自由研究発表

午前 9:00 ~ 11:30 / 午後 12:30 ~ 15:00

(共同研究者は○印が登壇者)

第1室 午前 〈歴史〉

大内山校舎 4 階 Y403

司 会 田所祐史 (京都府立大学)

9:00 ~ 9:25 社会教育研究における文化原論の展開と課題

久保舜一郎 (北海道大学大学院)

9:25 ~ 9:50 戦後社会教育における演劇活動

—1940 年代後半から 1950 年代の諸相—

小川 史 (横浜創英大学)

9:50 ~ 10:15 長野県八千穂村における健康学習の考察

高橋英明 (早稲田大学大学院)

10:15 ~ 10:40 大阪府吹田市における公民館制度の成立に関する一考察

松山鮎子 (早稲田大学)

10:40 ~ 11:05 経営学形成期における人材養成論の検討

—「労働管理」論の形成期に着目して—

倉知典弘 (吉備国際大学)

(討 論 11:05 ~ 11:25)

第1室 午後 〈歴史・若者〉

大内山校舎 4 階 Y403

司 会 山梨あや (慶應義塾大学)

12:30 ~ 12:55 大正期大阪市内青年団の組織化と活動の一考察

—日常と非日常の「公益事業」を中心に—

柴田昌美 (大阪教育大学大学院)

- 12:55 ～ 13:20 青年学校教員はいかに農村文化の向上を構想したか
—戦時期長野県における農業教育・拓殖・文化の結節点—
大蔵真由美（松本大学）
- 13:20 ～ 14:00 占領期八重山群島の青年の学習と生活・労働の検討
—石垣島・竹富島・与那国島の青年団機関誌の比較分析を中心に—
○山城千秋（名城大学）、○農中 至（鹿児島大学）
- 14:00 ～ 14:40 昭和戦後期における地方都市での青年期教育の展開
—福島県旧本宮町の状況、特に郡是製糸本宮工場の周辺に焦点化して—
○安藤耕己（山形大学）、○板橋孝幸（奈良教育大学）
久井英輔（法政大学）、 倉知典弘（吉備国際大学）
大蔵真由美（松本大学）、栗山 究（法政大学・非常勤）
竹淵真由（東京都教育庁）
- （ 討 論 14:40 ～ 15:00 ）

第 2 室 午前 〈歴史・女性／子ども〉

大内山校舎 4 階 Y404

- 司 会 千葉悦子（福島大学名誉教授）
- 9:00 ～ 9:40 1950 ～ 60 年代の宮城県における地域子ども会と非行防止論の遺産
—社会教育と地域福祉の視点から—
○竹原幸太（東京都立大学）、○江連崇（名寄市立大学）
- 9:40 ～ 10:05 療養所における女性の表現と記録
—多磨全生園を手がかりに—
坂内夏子（早稲田大学）
- 10:05 ～ 10:30 戦後「母親教室」についての検討
山梨あや（慶應義塾大学）
- 10:30 ～ 10:55 1950 ～ 60 年代における農村女性の自己教育の形成過程
陳佳虹（東京農工大学大学院）
- 10:55 ～ 11:20 原水爆禁止署名運動の担い手の学習経験とその意義に関する考察
—東京都杉並区「杉の子会」で学んだ女性に着目して—
平野叶大（所属なし）
- （ 討 論 11:20 ～ 11:30 ）

司 会 河野明日香（名古屋大学）

12:30 ～ 12:55 モンゴル民族の通過儀礼「ウルボー（断髪式）」の教育的役割

張妍俊（東京都立大学）

12:55 ～ 13:20 在日中国籍モンゴル族第二世代の言語継承をめぐる親の意識と実践

—モンゴル語と中国語の継承に着目して—

朝木日洛格（東京都立大学）

13:20 ～ 13:45 在日中国人ニューカマーの日常生活における意識変容に関する研究

—中国語を媒介とするネットワークへの参加を手がかりに—

李天睿（筑波大学大学院）

13:45 ～ 14:10 言語教育におけるクリティカル・シンキング・スキルの育成に関する一考察

—海外の文化施設の取り組みに着目して—

永田祥子（学習院大学）

14:10 ～ 14:35 パレスチナにおける文化的抵抗運動

—フリーダム・シアターの創設者ジュリアーノ・メール・ハミスの伝記—

齋藤真哉（駒澤大学・非常勤）

（ 討 論 14:35 ～ 14:55 ）

司 会 田中 雅文（日本女子大学名誉教授）

9:00 ～ 9:50 コロナ禍の韓国における識字・基礎教育現場の実態と対応

○金侖貞（東京都立大学）、○肥後耕生（豊岡短期大学）

○新矢麻紀子（大阪産業大学）

棚田洋平（（一社）部落解放・人権研究所）

添田祥史（福岡大学）、江口 怜（摂南大学）、横関理恵（旭川市立大学）

9:50 ～ 10:15 韓国・平生教育士の職能団体の現状と課題（その3）

内田和浩（北海学園大学）

10:15 ～ 10:40 地域住民組織化におけるエンパワーメントとリーダーシップ養成

：シカゴ市 X 学校の保護者主体 NPO の事例研究

清水広平（北海道大学大学院）

10:40 ～ 11:05 こども支援における教育と福祉関係者の「視差」に関する予備的検討

入江優子（東京学芸大学）

（ 討 論 11:05 ～ 11:25 ）

第 3 室 午後 〈人権・理論(学習の組織化)〉

大内山校舎 4 階 Y405

司 会 松岡廣路(日本福祉大学)

12:30 ～ 12:55 識字・日本語教育における「解放」とは何か？

—権力関係から自由になるために ある事例をとおして考える—

○菅原智恵美(大阪公立大学 特別研究員)

森 実(大阪教育大学名誉教授)、上杉孝實(京都大学名誉教授)

棚田洋平((一社)部落解放・人権研究所)

新矢麻紀子(大阪産業大学)

12:55 ～ 13:20 現代日本におけるパウロ・フレイレの語られ方に関する研究

—フレイレ教育思想の脱神話化に向けて—

酒井佑輔(鹿児島大学)

13:20 ～ 13:45 不定型教育に関する理論的考察

—地域文化創造・維持・継承との関連で—

鈴木健太(北海学園大学大学院)

13:45 ～ 14:10 自己教育運動としての公害学習における市民性育成

—評価枠組構築に向けた考察—

二ノ宮リムさち(立教大学)

(討 論 14:10 ～ 14:30)

第 4 室 午前 〈専門職養成(学習支援者)〉

大内山校舎 5 階 Y502

司 会 石井山竜平(東北大学)

9:00 ～ 9:25 社会教育人材ネットワークに対する都道府県社会教育主事の意識と関与

越村康英(弘前大学)、○渋谷かさね(静岡大学)

9:25 ～ 9:50 社会教育士の認知度—企業・自治体の人事担当への質問紙調査を基に

三宅隆史(立教大学)

9:50 ～ 10:40 公民館主事力量形成における高校生・大学生との関わり

—飯田下伊那地域社会教育師の研究(3)—

○木下巨一(松本大学)、○朝岡幸彦(白梅学園大学)

○向井 健(松本大学)、○小島一人(飯田市役所)

○松田武雄(名古屋大学名誉教授)

10:40 ～ 11:05 教育基本法第 13 条に基づく社会教育行政のあり方

梶野光信(日本大学)

(討 論 11:05 ～ 11:25)

第4室 午後 〈地域課題・地域社会教育(学習方法)〉

大内山校舎 5 階 Y502

司 会 内田純一(高知大学)

12:30～12:55 地域的教養形成としての地域社会教育

—コミュニティ・ストーリーを媒介とした文化的記憶論の規範的展開批判—

宮崎隆志(北海道文教大学)

12:55～13:20 地域課題に向き合う住民の学びとコミュニティ

—東京都板橋区の住民活動に着目して—

上岡稀生子(東京大学大学院)

13:20～13:45 地域社会の再編と社会教育・生涯学習Ⅴ

—自治公民館活動と学習活動、特に活動の担い手に着目して—

植村秀人(南九州大学)

13:45～14:10 世代間の学習を通した「伝統文化」の選択的継承と生き方を問う学び

—自然－社会－人間の関係理解の現代的学習方法から—

小栗有子(鹿児島大学)

14:10～14:35 持続可能な消防団における教育・訓練システムの基礎的研究

—各地の消防団の取り組み事例から—

磯部孝之(所属なし)

(討 論 14:35～14:55)

第5室 午前 〈学習における経験(原理論・学習方法)〉

大内山校舎 5 階 Y503

司 会 古里貴士(東海大学)

9:00～9:25 AI活用時代における暗黙知の非対称的移転がもたらす二重の喪失

コリー紀代(北海道大学大学院)

9:25～9:50 社会教育における評価論のアフェクト論的転回に関する一考察

佐藤智子(中央大学)

9:50～10:15 経験していない経験を理解する —聞き書きにおける実践知—

松本 大(放送大学)

10:15～10:40 経験をめぐる成人学習論の批判的検討

八木美華(東北大学大学院)

10:40～11:05 「学び合い」における経験の承認と意味形成：余暇研究の視点から

大磯恵子(東京大学大学院)

(討 論 11:05～11:25)

第5室 午後 〈学習主体〉

大内山校舎 5階 Y503

司 会 手打明敏（筑波大学名誉教授）

12:30～12:55 内発的な地域づくりにおける高校コーディネーターの役割

—ソーシャル・イノベーションの視点から—

丸山智子（同志社大学大学院）

12:55～13:20 総合的な探究の時間を契機とした社会参画意識の形成過程に関する研究

—中等教育学校のプロジェクト学習における社会教育的支援の役割に着目して—

小見まいこ（筑波大学大学院／NPO 法人みらいず works）

13:20～13:45 社会教育研究における地域づくりの担い手論の再考

井上広夢（東北大学大学院）

13:45～14:10 「社会人の学び直し」を社会教育としてどのように捉えるか

村尾政樹（小樽商科大学）

14:10～14:35 からだ・性についての学びの場の構築 —他者との学びに着目して—

川上優貴（東洋大学大学院）

（ 討 論 14:35～14:55 ）

第6室 午前 〈学習方法・学習主体〉

大内山校舎 5階 Y504

司 会 上野景三（西九州大学）

9:00～9:25 学習内容編成における住民参加と生涯学習政策

牛来 学（東北大学大学院）

9:25～10:05 住民主体の実行委員会がつくる地域の学び

：高知県室戸市「サマーセミナー」における成果と課題

○金亨善（中央大学）、○宝金実央（高知大学）

10:05～10:55 学習支援者の力量形成におけるフレーム・リフレクション

—多文化共生とジェンダーの視点から—

○平川景子（明治大学）、○何家其（明治大学大学院）

○杉山晋平（明治大学）、○楊迪（明治大学大学院）

10:55～11:20 大学生の流入による社会教育実践家の学びの再編

廣川祐司（北九州市立大学）

（ 討 論 11:20～11:30 ）

司 会 井上大樹（札幌学院大学）

12:30 ～ 12:55 民主主義の危機と若者の政治参加

—ヨーロッパのシティズンシップ教育と社会運動に着目して—

秦 範子（都留文科大学・非常勤）

12:55 ～ 13:20 日本の人権教育政策の陥穽

—教育・啓発は 2000 年以降のヘイトスピーチとアウティングに応答し得るのか

阿久澤麻理子（大阪公立大学）

13:20 ～ 13:45 ACEs のある若者の Agency 回復に寄与するユースワークの実践的方策に関するスコーピングレビュー

長岡若葉（大阪公立大学大学院）

13:45 ～ 14:10 青年期の移行における婚姻規範をめぐる葛藤と認識の変化

—都市に移住した若年女性を対象とする調査に向けて—

劉柳（北海道大学大学院）

14:10 ～ 14:35 社会教育における若者の地域参画について

金子晴信（岡山大学大学院）

（ 討 論 14:35 ～ 14:55 ）

司 会 松浦崇（静岡県立大学短期大学部）

9:00 ～ 9:25 学校外の学びを経験した若者の進路形成と社会教育的支援

—オルタナティブスクール卒業生の記述資料を手がかりに—

宋美蘭（弘前大学）

9:25 ～ 9:50 地域に開くフリースクールの実践

—子ども・保護者・スタッフの協働による場の生成—

宇陀直紀（大阪公立大学大学院）

9:50 ～ 10:15 ユースの当事者性の変容を促すフォーマル教育とノンフォーマル教育の連関

後藤聡美（神戸大学）

10:15 ～ 10:40 「じゃあ今度一緒に読もう」：居場所スタッフによる「再会の取り付け」の会話分析

執行治平（東京大学大学院）

10:40 ～ 11:05 「子どもの居場所」づくりの実践を介した子どもと支援者の変容

—沖縄の居場所における人々の相互作用に着目して—

千野たみ（筑波大学大学院）

（ 討 論 11:05 ～ 11:25 ）

第7室 午後 〈ケアと共同性(学習主体・学習方法)〉

大内山校舎 5階 Y505

司 会 吉岡亜希子(北海道文教大学)

- 12:30～12:55 学校用務員の実践にみる「見えないケア」とインフォーマルな学び
—学校の給食調理員から用務員へと転じたA氏のライフストーリーから—
佐々木敦(宮城県塩竈市立第二中学校)
- 12:55～13:20 保育園における保護者の〈共育て〉経験の変容過程
城田美好(早稲田大学大学院)
- 13:20～13:45 母親であることをめぐる拡張的な学習プロセス
—公民館における自主グループ活動から公開講座まで—
中尾友香(中央大学大学院)
- 13:45～14:10 カナダにおける成人女性の共同学習
—フェミニスト・クリスチャンの活動に着目して—
矢内琴江(早稲田大学)

(討 論 14:10～14:30)

第8室 午前 〈場の形成(学習主体、施設・団体・運動)〉

大内山校舎 6階 Y602

司 会 大高研道(明治大学)

- 9:00～9:25 学生のスポーツ施設利用の現状と公共施設の課題
笹瀬雅史(山形大学)
- 9:25～9:50 公民館・小学校・大学の連携による子どもの居場所づくりと教員養成
:愛媛県松山市久米公民館「わくわくチャレンジサタデー」の実践より
高橋平徳(愛媛大学)
- 9:50～10:15 地域密着型の子育てNPOにおける活動と労働
—名古屋市における指定管理者制度・委託事業の展開のなかで—
船橋理仁(名古屋大学大学院)
- 10:15～10:40 障害者団体「わらじの会」の運動における集团的主体の形成過程
—埼玉県武里団地とその周辺の「場所」をめぐる政治—
長岡 甫(名古屋大学大学院)
- 10:40～11:05 障害のある成人の学習活動を支える「居場所」形成に関する研究
—地域活動支援センターにおける関係性構築に着目して—
楊以楽(広島大学)

(討 論 11:05～11:25)

第8室 午後〈文化・芸術活動〉(学習方法・学習過程、学習の組織化、実践分析) 大内山校舎 6 階 Y602

司 会 杉浦ちなみ (法政大学)

12:30 ~ 12:55 ドラムサークルへの参加・関与の生成過程とその背景
— 参与観察と語りの質的分析から —

伊東美奈子 (東京大学大学院)

12:55 ~ 13:20 創作折り紙における成人教育の可能性
— 会報『折り紙通信』(1957-1989) を主軸にして —

松浦英子 (所属なし)

13:20 ~ 13:45 「社会教育」する芸術家たち

鈴木理仁 (仙台白百合女子大学)

13:45 ~ 14:10 〈母親〉となった人びとが子どもをあずけて自己表現にとりくむコミュニティの実践
分析研究：ケアする人をケアするフェミニスト・ペダゴギーはどのように始まるのか

齋藤梨津子 (早稲田大学)

14:10 ~ 14:35 レッジョ・エミリア教育における創造性の自由を創る「関わりのシステム」

蔡越先 (北海道大学大学院)

(討 論 14:35 ~ 14:55)

第9室 午後〈文化施設〉 ※第9室は午前なし 大内山校舎 6 階 Y603

司 会 田辺智子 (早稲田大学)

12:30 ~ 12:55 東日本大震災・長野県北部地震を契機とした地域博物館の創造
：災害伝承を越えて

久保内加菜 (鎌倉女子大学)

12:55 ~ 13:20 メトロポリタン美術館における専門職採用と職員の組織化

瀧端真理子 (追手門学院大学)

13:20 ~ 13:45 公共図書館における英語多読支援の展開プロセス
— 東海地方での広がりを中心に —

小川和子 (筑波大学大学院)

13:45 ~ 14:10 公共図書館におけるイベント実践を通じた実践共同体形成の可能性
— 図書館職員・大学教員の主体性変容を通して —

矢ヶ井那津 (北九州市立大学)

14:10 ~ 14:35 高齢者や認知症者に配慮した図書館づくりへの試み
— ノルウェー・オスロの事例を中心に —

鈴木尚子 (徳島大学)

(討 論 14:35 ~ 14:55)

ポスターセッション

11:30~12:30 大内山校舎1階 ロビースペース

(氏名*は非会員・共同研究者は○印が登壇者)

会場担当 研究担当理事：阿比留久美（早稲田大学）、木下卓弥（石巻専修大学）
（小栗有子（鹿児島大学）、金侖貞（東京都立大学））

掲示1

芸術活動における「文化の翻訳」に関する予備的考察

—教育・福祉・矯正施設との連携・協働の実践から—

○中山博晶（大阪公立大学）、○吉野さつき*（愛知大学）

○宮本聡*（九州大学）、長津結一郎*（東京藝術大学）

掲示2

公立図書館における高齢者の生涯学習活動と支援 —八王子千人塾を事例として—

○久保田治助（早稲田大学）、○額田岳*（八王子市生涯学習スポーツ部図書館課）

○上海雄一郎*（八王子市生涯学習スポーツ部図書館課）

○若槻健一*（八王子千人塾 塾生の会）、○橋本直紀*（八王子千人塾 塾生の会）

○李薇*（早稲田大学大学院）

掲示3

地域博物館実践の展開と未完の理論 —2つのモデルの軌跡から

栗山究（法政大学・非常勤）

掲示4

ライフキャリア教育としての対話型職場体験の効果構造

—益田版・職場体験における仕事理解・地域認識・将来展望の変容—

○林知里（東京大学大学院）、桐雅幸*（元・益田市教育委員会ひとづくり推進課）

掲示5

就職氷河期世代の「自分史」に関する質的研究—就職活動の実像を中心として—

川原健太郎（作新学院大学）

掲示6

美術館の教育プログラムにおける長期性の検討

—講座継続型・参加者継続型・場継続型の比較から—

弭書榛（東京大学大学院）

揭示 7

自発的参加に基づく保護者コミュニティの形成と課題—PTA を持たない学校の事例から
○田中里実（北海道情報大学）、金銀珠（北海道情報大学）

揭示 8

被災地の実践知をつなぐ地域定着型災害対策学習モデルの実践：実践者と研究者の協働

○吉田和樹（岩手保健医療大学）、本田文徳*（いわき市総合政策部）
前口憲幸*（中日新聞社）、小林智之*（関西学院大学）、大葉隆*（福島県立医科大学）
岩谷舟真*（関西学院大学）、尾無徹*（岩手県立大学）、増谷順子*（武蔵野大学）
菊池真弓*（佐久大学）、黒田美香*（獨協医科大学）
近藤日名子*（町田市立小山中学校）、黒川信*（東京都立大学）、飯塚哲子（東京都立大学）

揭示 9

在日モンゴルコミュニティにおける言語・文化活動の継承

—「太陽のゲル—多文化子育てコミュニティスペース」を事例として—

○ハスゲレル（東京都立大学）、○ゲレルサイハン アリュナー*（「太陽のゲル」代表）

揭示 10

生成 AI との対話は「わかったつもり」をどのように揺さぶるのか

—説明深度の錯覚からみた成人学習の再検討—

○金銀珠（北海道情報大学）、田中里実（北海道情報大学）

揭示 11

「アイヌの知」の形成に関する萌芽的研究 —春の植物採集と食の利用に着目して—

久野亜希子（東京都立大学大学院）

揭示 12

希望創発による新たな公共性の形成—地域実践から社会実装へ—

○大島俊一郎（高知大学）、宝金実央（高知大学）、渡辺茂*（高知大学）

揭示 13

優生思想は「終わった」のか？ —旧優生保護法廃止運動と生殖医療の現在—

橋田慈子（千葉大学）

掲示 14

社会教育研究の展開 —1970-80 年代レビュー

- 吉田弥生（北海道大学）、辻智子（北海道大学）、伊藤愛沙子*（北海道大学大学院）
- 井上みのり（北海道大学大学院）、大石千秋*（北海道大学大学院）
- 久保舜一郎（北海道大学大学院）、佐藤奈々恵*（北海道大学大学院）
- 田中あかり*（北海道大学大学院）、田中佑斗*（北海道大学大学院）
- 竹内優斗*（北海道大学大学院）、趙ハントン*（北海道大学大学院）、劉柳（北海道大学大学院）

掲示 15

ユースワーカーとは何か？（定義と養成のあり方）

水野篤夫（ユースワーカー協議会）

掲示 16

公共ホールの整備過程における学習活動—川崎市における 3 つの事例から—

堀本暁洋（愛知教育大学）

掲示 17

探究的学習における学生の学びと教員のかかわり

—高専における地域をフィールドとした学習活動の経験から—

- 辻智子（北海道大学）、○佐藤奈々恵*（北海道大学大学院）

掲示 18

アカデミーにおける社会教育実践研究者への抑圧・排除問題と対抗戦略

—「労働運動教育研究実践センター構想」研究運動と労働運動の接合と展望—

- 出川真也（NPO 法人里の自然文化共育研究所）
- 岡山茂*（早稲田大学名誉教授・日仏教育学会会長・大学評価学会顧問）
- 志賀千秋*（労働組合東京ユニオン）
- 柏木宏*（大阪市立大学名誉教授・米国の草の根社会運動の情報サイト GAIN 編集委員会代表）

掲示 19

新自由主義にあらがうユースワーク実践の葛藤

- 両角達平（日本福祉大学）、○山本晃史*（一般社団法人 with youth）
- 櫻井龍太郎*（NPO 法人こおりやま子ども若者ネットワーク）、阿比留久美（早稲田大学）
- 片岡一樹*（特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティー）、小川祐喜子*（立正大学）
- 津富宏（立教大学）、田中亨（園田学園大学）

倫 理 研 修

言論の自由とヘイトスピーチ

15:00～16:30 富士見ゲート 5F G503

報告者 森 実（大阪教育大学名誉教授）

内 容 第70回研究大会（オンライン実施）における差別発言を契機に、倫理問題に対する本学会の組織的な取り組みが問われ、規程の整備などの他、効果的な倫理研修の実施が求められることとなった。今回の倫理研修では、近年の社会状況も踏まえ、言論をめぐる差別についての問題状況や法制度、ジェンダー問題との関連などについて、報告をもとに質疑応答や意見交換を行い、会員が共に認識を深める機会とする。

総 会

16:45～18:00 富士見ゲート 5F G503

懇 親 会

18:15～20:15 富士見ゲート 3F カフェテリアつどひ

第3日目 9月7日(月)

プロジェクト研究

DX時代の社会教育・生涯学習の課題

9:30～12:30 富士見ゲート5階 G503

テーマ デジタル時代と社会教育

司 会 飯田優美（京都女子大学非常勤）・堀 薫夫（大阪教育大学名誉教授）

報告Ⅰ 松本恭幸（摂南大学）

報告Ⅱ 宮本聖二（立教大学）

報告Ⅲ 尾高 泉（教育とメディアのコモンズ・ラボ代表、日本 NIE 学会常任理事、
元日本新聞博物館館長）

コメンテーター 坂本 旬（法政大学）・佐野敦子（静岡大学）

内 容 本プロジェクト研究は「デジタル時代と社会教育の課題」をテーマに、三つの観点から現状と展望を報告する。

①松本恭幸（摂南大学）は、デジタルアーカイブの進展により地域の記録や記憶の保存・共有の方法が大きく変化し、住民参加型の継承や利活用が可能になった一方、データの選別や持続的運用といった課題について報告する。

②宮本聖二（立教大学）は、誤情報が拡散しやすい現代において、ファクトチェックを組み込んだメディアリテラシー教育の重要性を強調し、主体的に情報を検証する力の育成が社会教育の中核になることを報告する。

③尾高泉（教育とメディアのコモンズ・ラボ代表、日本 NIE 学会常任理事、元日本新聞博物館館長）は、SNS の普及により公共的言論空間が変容し、誰もが発信者となる一方で分断や偏向が生じやすくなっている現状を踏まえ、元新聞博物館館長の経験から対話と多様性を尊重する社会教育の役割を報告する。

三者に共通するのは、デジタル技術の利便性とリスクを踏まえ、市民の主体性と批判的思考を育む社会教育の必要性をめぐる問題であり、デジタル化社会をめぐる最前線とも言える課題について、多様な立場から議論を行う予定である。

ラウンドテーブル

13:30～16:00

ラウンドテーブル①

大内山校舎 4 階 Y403

テーマ：社会教育主事養成課程での学び

——卒業を控えた学生へのグループインタビューを基に（その3）

コーディネーター 渋江かさね（静岡大学）

杉山晋平（明治大学）

報 告 若園雄志郎（宇都宮大学）

倉持伸江（東京学芸大学）

内 容 社会教育主事養成課程（以下、養成課程）を履修した学生が、どのような学びを経験したかについて知るために、養成課程で学び卒業を控えた状況にある複数の大学の学生に、グループインタビューを実施した。本ラウンドテーブルでは、6月集会に引き続き、新たに実施したインタビュー結果を加え、引き続き学生の学を捉える視点や枠組みを追究する。そのことを通して、養成課程のあり方を多面的に考えあう機会としたい。

ラウンドテーブル②

大内山校舎 4 階 Y404

テーマ：経験の社会教育学 ―経験と社会教育との関係性を捉え直す―

コーディネーター 松本 大（放送大学）

安藤耕己（山形大学）

農中 至（鹿児島大学）

報 告 松本 大（放送大学）

内 容 経験は社会教育学における理論と実践の基盤である。しかしながら、必ずしもその意味は理論的・実践的に十分に検討されてこなかった。社会教育学は、人生や生活で形成される経験をいかに把握しうるのか、経験を資源とする学習方法はいかに可能か、学習経験をいかに制度的に可視化できるのか、社会教育実践に固有の経験はあるのか。本ラウンドテーブルでは、経験を手がかりに、社会教育学の理論と実践を捉え直すことを目指す。

ラウンドテーブル③

大内山校舎 4 階 Y405

テーマ：社会教育現場における差別事象と学習（その 2）

コーディネーター 岩槻知也（京都女子大学）

報 告 上杉孝實（京都大学名誉教授）

棚田 洋平（（一社）部落解放・人権研究所）

内 容 さまざまな社会教育現場で差別言動やハラスメントなどが発生し、対応が問題となっている。それらの事象を「個人の問題」ではなく、「組織の問題」として捉え、新たな学習活動へと結びつけることが求められている。こうした問題意識のもと、六月集会に続き、本会では、①大阪における「識字・日本語」という枠組みの歴史的経緯、②国内の差別禁止をめぐる法制度の動向について報告し、参加者間で経験と意見を交流したい。

ラウンドテーブル④

大内山校舎 5 階 Y502

テーマ：人口減少社会における「高等教育と生涯学習」再考 4

— 社会人学生の本音から探る、学び直しへの期待と現実、職場の文化 —

コーディネーター 出相泰裕（大阪教育大学）

鈴木尚子（徳島大学）

報 告 市山綾乃（法政大学大学院キャリアデザイン学研究科修士課程 2 年）

寺田南津衣（法政大学大学院キャリアデザイン学研究科修士課程 1 年）

大庭美代子（早稲田大学大学院文学研究科修士課程 1 年）

今井敏之助（東洋大学大学院文学研究科博士後期課程 1 年）

内 容 本企画では、大学以外の職務に従事する都内私立大の社会人学生・院生を招き、大学・大学院で学ぶ意味や期待と現実のギャップ、社会人学生の学びの動機やキャリアへの影響、制度の改善点等を聴取し、有職者の学び直しにまつわる本音を検証する。本ラウンドテーブルを通じて、多世代対応という大学側の構造的課題を受け手側の見解から浮き彫りにし、今後の生涯学習・社会教育研究における本課題の論点析出と整理に繋げる。

ラウンドテーブル⑤

大内山校舎 5 階 Y503

テーマ：子ども・若者世代と地域コミュニティの社会教育的接面をどう構想するか

— 子ども・若者支援に携わる専門職の力量形成と研修等のあり方（10） —

コーディネーター 生田周二（奈良教育大学名誉教授）

水野篤夫（ユースワーカー協議会）

川野麻衣子（北摂こども文化協会）

- 南出吉祥（岐阜大学）
井上大樹（札幌学院大学）
報 告 宮崎隆志（北海道文教大学）
竹田明子（京都市ユースサービス協会）
小浦明生（NPO 法人じっくらあと、わじまティーンラボ館長）
- 内 容 子ども・ユースワーク（YW）は、子ども・若者の自発性を尊重し育む活動であり、「よく訓練された即興性」を伴うとされる。活動の接面として、直接的に関わる実践の接面（ミクロ）に加え、場づくりやコミュニティとの関わりなどメゾ・マクロといった重層的な「対象世界」が位置づく。YW の構造的把握をするため、社会教育研究の知見、京都「アウトリーチ」実践ならびに能登「わじまティーンラボ」の実践を踏まえて考え合いたい。

ラウンドテーブル⑥

大内山校舎 5 階 Y504

テーマ：抵抗の知性、連帯の知

——社会教育研究におけるアカデミアのガバナンスと倫理を問う

コーディネーター 出川真也（NPO 法人里の自然文化共育研究所）

報 告 岡山 茂（早稲田大学名誉教授・日仏教育学会会長・大学評価学会顧問）

田村優介（弁護士・城北法律事務所）

関根秀一郎（労働組合東京ユニオン執行委員長・派遣ユニオン書記長）

柏木 宏（大阪市立大学名誉教授・

米国の草の根社会運動の情報サイト GAIN 編集委員会代表）

田中圭太郎（ジャーナリスト）

萩原寿夫（生涯学習団体 としま案内人駒込・巣鴨）

内 容 六月集会ラウンドテーブル「アカデミズムにおける社会教育実践家・研究者への抑圧・排除メカニズム」では、学術界と大学に潜む抑圧・排除の実態とその構造的問題を分析し、社会教育実践研究者の人権と学問の自由を守るための研究と労働運動の連帯可能性を展望した。浮かび上がった課題は、いかにして既存システムの限界を乗り越えて「オルタナティブな知の拠点形成」へ昇華させていくかであり、本企画ではこの課題に切り込む。

コミュニティをつむぐ 生涯学習支援

—社会教育主事の実践から—

●倉持伸江 編著 定価2,200円

東京都23区で活躍する社会教育主事の実践をもとに、生涯学習支援の専門性を現場から学ぶ一冊。人・つながり・地域を育てる。

生涯学習と地域づくり のハーモニー —社会教育の可能性

●田中雅文 監修/柴田彩千子・
宮地孝宜・山澤和子 編著 定価2,200円

「生涯学習」研究に取り組んできた執筆者が、「学校と地域」「共生社会」「子育て支援」「おとなの学び合い」をテーマに編集した実践論集。



テキスト生涯学習 新訂3版 —学びがつむぐ新しい社会—

●田中雅文・坂口緑・柴田彩千子・宮地孝宜 著

定価2,090円

生涯学習の基本知識、学校教育と社会教育との関係、そしてまちづくりや国際社会など社会との接点から、生涯学習を考察するテキスト。



パブリック・アチーブメント／シティズンシップ教育シリーズ
人生を拓き、社会を創るために、「地域」と「世界」のそれぞれから「とっかかり」をつかむテキスト。

人生を拓く・社会を創る シティズンシップの学び

●池谷美衣子・田島祥・二ノ宮リムさち 編著

地域から学ぶ・世界を創る パブリック・アチーブメントと持続可能な未来

●二ノ宮リムさち・高梨宏子 編著 定価各2,090円



早稲田教育ブックレット 34 不登校問題と子ども・若者の「居場所」の現在

—不登校の子どもが生きる「社会」を拓く—

●早稲田大学教育総合研究所 監修 定価1,100円
不登校問題の変化、フリースクールの子どもの思い等を議論する。

高校と地域のパートナーシップ

—協働が未来を拓く—

●荻原彰・小玉敏也 編著 定価2,640円
多様化する学校の地域協働を5つのカテゴリに整理し、実践事例等を紹介。

学びをつくる問いと対話のデザイン

—探究・研修・大人の学び—

●福島創太 著 定価2,310円
探究学習や研修設計に役立つ、学びとそのデザインの手法を紹介する実践書。



社会教育経営の基礎 第2版

●山本珠美・熊谷慎之輔・松橋義樹 編 定価2,860円

「社会教育経営論」の基礎テキスト。博物館法について加筆修正した2版。



「ESD でひらく未来」シリーズ 社会教育・生涯学習論 改訂版 —自分と世界を変える学び—

●鈴木敏正・朝岡幸彦 編著 定価2,090円
社会教育・生涯学習の基本について地域での実践例を通し理解を深める。



遊びの力で学校を変える

—ワクワクがあふれる休み時間の作り方—

●マイケル・フォレット 著/IPA日本支部 監訳 定価2,530円
「子どもの遊び権利の推進」を実践として形にしていこうガイドブック。



〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

生涯学習と社会教育の基礎

津田 英二・伊藤 真木子・鈴木 真理 編著
A5判 / 並製 / 192頁 定価2,420円

社会教育・生涯学習入門

—誰ひとり置き去りにしない未来へ—
二ノ宮リム さち・朝岡 幸彦 編著
A5判 / 並製 / 160頁 定価2,200円

新SDGs論

—現状・歴史そして未来をとらえる—
田中 治彦 著
四六判 / 並製 / 160頁 定価2,090円

持続可能な社会をつくる 幼児期のESD論 —子どもと環境—

降旗 信一・菊池 稔 編著
A5判 / 並製 / 160頁 定価2,200円

これからの地方創生・関係人口

—関係人口から持続可能な地域の創り手へ—
岩本 泰 編著
A5判 / 並製 / 160頁 定価2,200円

〈子どもの社会参画〉を問う 環境教育／ESD

小玉 敏也 著
A5判 / 並製 / 200頁 定価2,420円

児童文化としての動物園教育

—一到津と上野にみる歴史・実践・未来—
原賀 いずみ 著
A5判 / 並製 / 196頁 定価2,420円

ワーク・ライフ・バランスと 生涯学習—すべての働く人々のために—

小川 誠子 著
A5判 / 並製 / 160頁 定価2,200円

ミュージアムABCシリーズ 〈全3巻〉

各巻▶B5判 / 並製 / 168頁 定価2,530円

ビジュアル博物館学 Art

水嶋 英治・小泉 優莉菜・佐々木 淑美 編著

ビジュアル博物館学 Basic

水嶋 英治・高橋 修・山下 治子 編著

ビジュアル博物館学 Curation

水嶋 英治・小川 義和・中村 隆 編著

人間と「言葉」を
洞察する出版社



にんげん どう
人言洞〈NingenDo LLC〉 〒234-0052 神奈川県横浜市港南区笹下 6-5-3

mail info@ningendo.net website <https://www.ningendo.net>



日本社会教育学会 第 73 回研究大会プログラム

2026 年 7 月 31 日発行

【発行】日本社会教育学会事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail : jssace.office@gmail.com <http://www.jssace.jp/>

【会費等納入先】

ゆうちょ銀行 振替口座 00150—1—87773（口座名：日本社会教育学会）

他金融機関からの振込用口座番号 ○一九（ゼロイチキュウ）店（019）当座 0087773
